

令和元年度第1回鎌倉市医師会立産科診療所運営協議会 会議録

運営協議会を次のとおり開催しました。

(敬称略)

| | | |
|--------------|---------------------------------|-------|
| 協議会名称 | 鎌倉市医師会立産科診療所運営協議会 | |
| 開催日時 | 令和元年7月30日(火) 19時30分～20時37分 | |
| 開催場所 | 鎌倉市役所 第3分庁舎 1階 講堂 | |
| 委員 出席者 | 特定非営利活動法人 小児臨床研究支援ネットワーク 理事長 | 名取 道也 |
| | 特定非営利活動法人 医療ガバナンス研究所 理事長 | 上 昌広 |
| | 弁護士 | 増本 敏子 |
| | ファミリーサポートセンター理事 | 高橋 佳子 |
| 医師会・ 市出席者 | 鎌倉市医師会 副会長 | 西尾 佳晃 |
| | 鎌倉市医師会 理事(産科診療所担当) | 蔵並 貴子 |
| | 産科診療所 所長 | 高山 照雄 |
| | 鎌倉市健康福祉部次長 | 田中 良一 |
| 次回開催 予定日 | 令和2年1月下旬 | |
| 問合せ先 | 鎌倉市医師会 事務局 電話番号 0467-22-1245 | |
| 会議記録 | 以下のとおり | |

事務局 本日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。開会に先立ちまして、先月6月30日の鎌倉市医師会定時総会において役員の改選が行われ、本運営協議会のメンバーが変更になりましたので、西尾副会長より御挨拶とメンバーの御紹介をさせていただきます。

また、鎌倉市も、4月1日付で異動がありましたので、御挨拶をさせていただきます。

西尾医師会副会長 本日は酷暑の中、産科診療所運営協議会のために御足労いただきまして、委員の先生方、どうもありがとうございます。医師会の体制が変わり、新会長には山口がなりましたが、本日、所用のた

め欠席しておりますので、私がかわりに御挨拶をさせていただいております。

私、副会長の西尾と申しますが、前期までは産科診療所担当理事をしておりました。新しく担当理事には蔵並が就任しておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

田中健康福祉部次長 この4月の人事異動で、健康福祉部の次長兼福祉総務課長ということで市民健康課の所管の次長となりましたので、どうぞよろしく願いいたします。

菊池市民健康課長 4月1日付で市民健康課長になりました菊池です。どうぞよろしく願いします。

事務局 それでは、今年度第1回目の鎌倉市医師会産婦人科診療所運営協議会を始めたいと思います。

本日は田坂先生が急遽欠席になりましたので、出席者は4名になりますが、過半を超えておりますので、本協議会設置要綱第6条第2項の規定により、会議は成立しておりますことを御報告申し上げます。

この後の進行は名取会長にお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

会 長 それでは議事に入りたいと思います。事前に前回の議事録が配付されておりますが、特段、御意見はお寄せいただいておりますので、よろしければ、この議事録で確定をさせていただきたいと思います。

事務局 ありがとうございます。議事録については、鎌倉市医師会のホームページに掲載させていただきたいと思います。

会 長 それでは、次第3の(1)平成30年度の事業報告及び決算報告について、御説明お願いいたします。

事務局 資料1をご覧ください。分娩件数です。平成30年度1年間の分娩件数は、平成29年度の158件よりも8.9%、件数にして14件減少し144件でございました。住所別の内訳は、市内の方が97人で全体の67%、里帰りの方が26人で全体の18%、市外の方が21人で全体の15%で、月平均12分娩となっております。市内の方の割合は、前年度とほぼ同じで

ございましたが、里帰りの方は2%の減少、市外の方はその分2%増加しております。この内、帝王切開は18件で、6件は緊急で行いました。母親の出産時の年齢は、開設以来の統計になりますが、一番多いのは31歳から35歳の方で、全体に占める割合は42%となっております。

続きまして、資料2分娩者の地域別内訳でございます。鎌倉地域の方は4割を超えており、一番多くなっております。次に多いのが里帰りの方で18%、3番目は深沢地域の方で10%、続いて逗子の方で8%となっております。

鎌倉市 資料3は、平成30年度の母子健康手帳の交付件数と出生連絡票の提出件数をあらわしたものです。出生連絡票は、窓口や郵送等により市に届け出があった月で集計しているため、実際の生まれ月とは若干の差が生じていますが、施設及び地域ごとの分娩件数等の出産動向は、概ね把握できるものと考えております。

なお、前年度までは通年の件数を記載しておりましたが、今年度から最新の件数のみの記載となっております。前年度以前の件数は、資料3の別紙で御確認ください。

まず、平成30年度の母子健康手帳の交付数は1,020件で、平成29年度1,095件から75件の減少となっております。

続いて、鎌倉市全体での出産ですが、平成30年度の出生連絡票の件数は984件で、平成29年度と比較しまして18件減少し、平成20年度のティアラかまくら開設以降、最小の件数となっております。

資料3の3分娩施設及び地域別内訳をご覧ください。平成30年度の鎌倉市民が出産した場所の状況ですが、市内4施設が984件中552件で、全体の56.1%となっており、平成29年度の1,002件中552件による55.1%から件数は同数ですが、割合としては1%の増加となっております。市内4施設の内訳を見ますと、ティアラかまくらは、平成29年度は108件で10.8%、平成30年度は95件で9.7%、湘南鎌倉総合病院は、平成29年度は143件で14.3%、平成30年度は150件で15.2%、矢内原医院は、平成29年度は174件で17.3%、平成30年度は195件で19.8%、湘南鎌倉パーク

リニックは、平成29年度は127件で12.7%、平成30年度は112件で11.4%となっており、前年度比で、ティアラの割合は1.1%の減少、湘南鎌倉総合病院は0.9%の増加、矢内原医院は2.5%の増加、湘南鎌倉バースクリニックは1.3%の減少となっている状況です。

なお、平成30年度の湘南鎌倉総合病院と湘南鎌倉バースクリニックの合計は262件で、徳洲会としては前年度の実績270件から8件、0.4%の減となっており、前年度より減少しています。

また、県外での出産割合は151件、15.3%で、前年度比4%の減少となっており、前年度より減少しています。

続いて、資料3の4鎌倉市内分娩施設別内訳をご覧ください。市内4施設の鎌倉市民以外を含めた分娩件数を記載しております。ティアラかまくらは、平成29年度の158件から14件減少の144件、湘南鎌倉総合病院は平成29年度の443件から5件増加の448件、矢内原医院は平成29年度の405件から47件増加の452件、湘南鎌倉バースクリニックは平成29年度の308件から34件減少の274件となっており、前年度より減少しています。

なお、湘南鎌倉総合病院と湘南鎌倉バースクリニックの合計は722件で、徳洲会としては平成29年度の751件から29件の減少となっており、前年度より減少しています。鎌倉市民の出産件数が減少している中、市内での出産割合は56.1%で半数を超えておりますが、一方で、出生数全体やティアラかまくらの分娩件数の減少が続いていることを勘案し、今後のティアラかまくらの役割について、検討を図る時期にきていると考えます。

事務局 続きまして、資料4ティアラかまくらの分娩数と予約状況でございます。予約状況につきましては記載のとおりでございますが、予約の総数が163件で、前年度に比べまして7%減っております。キャンセル後の確定した予約数は151件で、これも6%の減少となります。なお、今年度6月末現在においては、前年同時期と比べまして18.6%、件数にして22件、予約数が減少しております。

続きまして、資料5外来診療件数等でございます。外来診療件数は4,797件で前年度より1%、件数にして50件、僅かでございますが増加

しております。この内訳は妊婦検診が3,178件、前年度と比べ9%、309件の減少、1カ月検診は172件でほぼ同じ、2週間検診は138件、10%の減少、母乳外来は240件で24%の減少、婦人科は898件で75%の増加、市の子宮頸がん検診は171件で57%の増加、風疹やインフルエンザの予防接種は、132件で18%の増加でした。平成25年度から続いておりました外来診療件数の減少については、一応止まったものと考えます。

続きまして、資料6各種教室等の開催状況でございます。妊娠初期と後期の2部制で開催をいたしております両親教室は24回、合計で223人の方の参加がございました。積極的な参加呼びかけを行った結果、前年度に比べまして97人、77%の増加となりました。その他、市からの受託事業「はじめまして赤ちゃん広場」が11回、91組の参加を得ております。

また、市の産婦新生児等の訪問指導事業の受託として行った新生児訪問は、97件を実施いたしました。各種教室は、順次拡大してまいりましたが、記載のとおりです。平成30年度は、新たな取り組みとして更年期講座を始めました。

続きまして、資料7平成30年度産科診療所運営費収支報告についてです。事業活動収入の補助金収入は、鎌倉市からの運営費補助金1億1,784万4,432円、及び分娩手当補助金48万円で、合計1億1,832万4,432円、予算に対しまして2,276万2,568円の減となりました。

なお、神奈川県 of 帝王切開術対応医師確保事業に係る地域医療介護総合確保基金補助金は、平成29年度をもって終了しております。

受取受託料収入は、風疹抗体検査料3万2,100円、鎌倉市から受託の新生児訪問事業の受託料40万7,400円、風疹等予防接種受託料25万8,020円、子宮頸がん検診受託料82万7,419円、「はじめまして赤ちゃん広場」事業の受託料22万5,500円、産後ケア事業受託料100万3,300円で、合計275万3,739円です。

受取利息、自動販売機受取手数料、駐車場固定収益金等の諸収益は43万1,629円です。平成30年10月から駐車場をコインパーキングにしたこ

とによりまして、前年度に比べ大幅な増加になりました。診療収入につきましては、保険収入、自費収入があり、さらにそれぞれ外来収入、入院収入があります。合計で1億3,544万7,659円で、当初見込んだ分娩件数140件を若干上回ったこと、婦人科診療の大幅増加による外来診療件数の維持が図られたこと等もあり、当初予算に対しまして1,121万3,659円の増加がありました。事業活動収入合計は、2億6,837万4,840円でございます。

次に、事業活動支出についてです。事業管理費の主なものは、食事提供、臨床検査、清掃等の委託料2,780万5,028円、薬品消耗機材購入のための薬品材料費673万3,816円、土地建物の賃借料、医療機器リース業等の賃借料3895万6,155円などで、合計8,647万3,620円。人件費支出は、医師及び看護、事務スタッフの人件費で、1億7,048万3,839円となりました。よって、事業活動支出合計は2億5,695万7,459円となり、事業活動収支差額は0円でございます。

なお、市からの運営費補助金につきましては、当初、1億4,061万1,000円の交付決定を受けておりましたが、剰余金が生ずることとなったため、2,276万6,568円の返還を行いました。結果として、平成30年度の運営費補助金は1億1,784万4,432円となります。

会 長 御報告いただきました事業報告、決算報告について、御意見をいただきたいと思えます。分娩数としては、ここ数年の傾向ですが、やはり減少していて、これが日本全体における分娩数の減少で、私、計算していないのでわかりませんが、パーセンテージ的には、毎年数%割れという感じかと思えます。一つ確認しておきたいのは、この平成30年度予算というのは分娩数の想定が140件だったのか。

事務局 はい、そのとおりです。

会 長 予算を計算するための前提になる分娩数が、140件で計算をしたわけですね。外来の方で大変努力をしていただいて、外来の患者さんについてはかなり数が増えてきてはいるわけですが、分娩数の方は減っている。減っているけれども、当初の想定していた140件よりは4件、分

娩数が多くなったと。したがって、市からの補助金を返還したというお話でございました。市からの補助金の返還というのは、この前年度は、どうでしたか。返還することができたのか、それともできなかったか。

事務局 前年度も返還しております。

委員 資料7を見ると、予算に比べ人件費支出が1,439万円少ないが、これはどうしたのか。

事務局 前回のこの会議で、人件費を削減して経費を落とそうということで、お示しをいたしました。常勤職員の減、取り扱い件数が減っているということもありますので、やむを得ませんが、実際に削減と言いつても、退職者の不補充ということで、全体の人数を減らしており、その分が人件費のマイナスになっているものと考えております。常勤職員を減した分、非常勤は増えています。

委員 前回、常勤10名を7名にするという話があったと思うが、何人ぐらい常勤が辞めたのか。

事務局 昨年の7月1日現在、この会議が開かれた時点では、看護スタッフについては、主任1名を含め常勤助産師が10名、常勤看護師が1名、非常勤助産師が3名という体制で行っておりました。今年度の4月1日現在では、主任1名を含め常勤助産師が7名、常勤看護師が1名、それらをカバーする非常勤助産師が5名という体制でスタートしております。常勤は3名減らしておりますが、きめ細かくカバーするために、非常勤を効率よく使うという形で対応しております。

委員 出産件数は少し減っているが、現場の状況は、今の体制で大丈夫なのか。高山先生に伺いたいですが、常勤の助産師が3名減っても、大丈夫なのでしょうか。

高山所長 やりくりはしており、公休は何とかこなしているが、有給を消化するのは難しくなっていると聞いている。

委員 人件費が大分減っている。そのことは、経理上はとてもありがたいことだが、安全ということが一番心配で、事故なく皆さんに喜ばれて

利用されているということは、本当にありがたいことだと思っている。
現場も大丈夫な状況なのか、心配している。

事務局 取り扱う分娩件数が減っているのですが、その部分の産科としての業務量自体は減っております。ですから、その分イコールにはなりません。人が減らすことはやむを得ないと現場も考えておりますが、今の状況が結構ぎりぎりの段階かと、安全を確保していく上で、やっぱりこの辺が限度に近いところかなという実感はあります。当然、スタッフたちも件数が減っているという色々な条件も踏まえまして、自分たちの工夫、努力でいこうという意気込みではおります。ただ、一人当たりの夜勤回数が、やはりどうしても増えております。今、月7回ぐらいが平均で入るようになっていきますので、これ以上人数を減らすことは、難しいと考えております。

委員 ぎりぎりの線で工夫して頑張っているということですね。わかりました。

会長 資料7をご覧になってお分かりのように、診療収入は、予算に比べて非常に大きな努力がなされていて、増えている。分娩数が減っているにもかかわらず、診療収入が増えている。それらは、外来で一生懸命努力をされた結果の一つであると思いますが、前回の時、申し上げて直ぐには無理な話なのはよくよく分かっているが、どうやって収入を増やすかという話の時に、ここにある例えば、受取受託料で、鎌倉市として子育て支援事業を実施していて、そこに幾ばくかの予算が投入されているのだとしたら、その一部をティアラの方が請け負うというようなアイデアはどうかということをお願いした。その時に、ティアラだけに任せるというのもうまくないというようなお話も伺ったが、何かその辺は少しアイデアというのは出せていますか。今年度に入っているのですが、もし可能性があるとしても次の年度に向けてのお話とは思いますが。

事務局 平成30年度に関して申し上げますと、産後ケア事業というのが、新しくスタートした事業です。その部分は、ティアラだけではなくて、市

内の産科でも可能な事業です。ティアラかまくらでは、積極的に受け入れていこうということで、今、取り組んでおり、実際に平成30年度は、年間を通して100万円の収入が得られたという状況で、今年度に入りましても、順調に件数を伸ばしております。

会 長 産後ケア事業という名目は、ティアラに非常にぴったりはぴったりですが、分娩数が減ると自動的に件数が減るということにもなりかねないので、これは市の方として、子育て支援とかそういったような費目といたしますか、そういう事業に対して、どのくらいの予算をつけているのでしょうか。大ざっぱで結構ですけれども。

前回の時より少し具体的な話でいきますと、虐待の防止とかそういったようなイメージでどのくらいのアクションを取っていらっしゃるのですか。

鎌倉市 虐待とかそういう部分に関しては、セクションが、健康福祉部ではなくて、こどもみらい部になり、予算的に別の形になっています。ただ、母子保健事業だけを見ると、うちの予算は1億6,000万ぐらいかけております。

会 長 母子保健事業。

鎌倉市 はい。

会 長 そうすると、今のお話は産まれた後の子供。

鎌倉市 そうです。

会 長 管轄の部署が違うということですか。

鎌倉市 色々分かれており、健康福祉部は、例えば産後ケアとかそういう部分は健康福祉部ですが、虐待の相談事業とかいう部分は、こどもみらい部のほうになっています。

会 長 このティアラは、こどもみらい部からの予算をもらうことは難しいわけですか。担当が違うというか、部署が違うから。

鎌倉市 なかなかその辺は、ちょっと厳しいのかなと。

委 員 ティアラが健康福祉部の仕事。関連性で、こどもみらい部とは縁がないということか。縦割り行政というか、言葉は悪いが。

会 長 色々な部門からお金をもらってもいいような気もするけど。そういうわけにはいかない。

委 員 いいじゃないかという気はしますね。

会 長 なかなか難しい。

委 員 子供が生まれて育っていくというのは、同じ人間が育っていくわけですからね。

委 員 そうですね。

委 員 健康福祉部というのと、こどもみらい部とが、今、別の役割で動いておられるので、それはそれでわかるが。

会 長 こどもみらい部の担当、これは何かで切らなきゃいけないので、例えば、乳児期までとか、生後1年以内はこっちの担当みたいな、切り分けをするというのものもあるのかもしれませんがね。実際には、虐待のかなり半分以上は1歳未満に起きますので、そんな理屈もあるのかもしれませんがね。どうやって予算を獲得するかという話だけなので。

委 員 産後ケアの事業は、ティアラで産まれたお子さんだけでなく、色々なところで出産された方も、ここでの産後ケアを受けられるということですよ。たしか。

事務局 はい。そのとおりです。現実には、他院で分娩なさった方も受け入れております。

委 員 そうですね。そうすると、色々な施設、ちょっと時間が経っていて、華やかさとかそういうところではなくて、安心感というところで駅前の立地もありますので、他のところで分娩された方も、ここは市と連携してやっている施設というところの安心感があると思うので、先ほどお話があったような、子育て、その後の虐待のリスクですとか予防も兼ねて、ティアラが中心になって、この産後ケア事業を積極的にやっていくという場所として、認識されるということはとても大切なことなのかなと思います。子育ての部分とか、私もファミリーサポートの仕事もやっているんで、相談課の方とかとやりとりさせていただくこともあるので、少し知っているのですけれども、虐待のところの連

携というのを、産後ケアのところで助産師さん、保健師さんの相談の中で、リスクの高い産後の妊婦さん、産婦さんのケアをしていくというのを一つの大きな目標というか、売りと言うと変ですけど、物にしていくというのも、とても大切な視点かなというふうに思います。

会 長 そうですね。何か虐待については、妊娠中のボンディングという言葉があるのですが、そういうことの障害というのは、最近の研究でも随分進んできているので、虐待を防ごうと思ったら、産まれる前から手をつけていかなきゃ絶対できないんですよ。

委 員 そうです。

会 長 なので、その意味でティアラが、それから先ほど申し上げたようにほとんどのケースは、もう産まれて1年以内に起きるわけなので、分娩を担当する、またはティアラで出産していなくても、鎌倉で出産された方の面倒を見ていくというのに、一番適切なのはこのティアラの産後ケアでもいいのです。そういったようなことじゃないかと思うので、何かちょっとそういう議論づくで、少し実際に鎌倉市で虐待の事例がどのくらいあるのか、余りない、たしか、前回のときも余りないというお話を伺ったが。

委 員 そんなはずはない。

会 長 どうなのですか。あるのですか。

鎌倉市 通告件数は、軒並み増えております。ただ、いわゆるマスコミ的に取り上げられるような重篤なケースが起きていないというだけです。

会 長 児相は、ここはどうなっているのですか。

鎌倉市 ここの所管は、鎌倉三浦地域児童相談所という横須賀にあるのですが、それは県の。

会 長 それは、県の施設なのですか。

鎌倉市 はい。児童相談所は県が。

会 長 そうすると、そこは県と連絡をとってみたいな感じになるのですか。

鎌倉市 そうですね。市の中では虐待の部署としては、こども相談課というところが窓口になっておりまして、もちろんティアラともそうですし、

市民健康課の保健師、助産師が連携して支援に当たっているというような現状です。

会 長 何かちょっと旗を揚げるといふか、鎌倉市内ではもう虐待ゼロキャンペーンでも何でもいいのですけれども。何かそういったようなプロモーションをかけて、適切な予算をいただくというのも一考だなというふうに思います。今、7月ですから、恐らく来年度の予算というのは、9月頃には、議論をがんがんやっている時期じゃないかと思しますので、少し行動を早くしないと、いつまで経っても間に合わないみたいになります。よろしければ、少し検討していただければと思います。

会 長 平成30年度の事業報告及び決算報告については、よろしいでしょうか。

委 員 健康福祉部とこどもみらい部で話し合うということではできないのですか。これから、ここでそういう意見が出たということ。

委 員 役所の中で言うていただければと思う。

鎌倉市 ティアラという部分じゃなくて、虐待とかそういう部分の。

委 員 はい。そうです。

鎌倉市 健康福祉部とこどもみらい部との話し合いは、これからはもっていかなければいけないものとは思っています。これから先、こどもみらい部の方が、発達、子供子育てサポート拠点みたいなものをつくらないといけないということもあるし、健康福祉部の方も、子育て世代包括支援センターというものを立ち上げなければいけない。そうするとやっぱり、よりこどもみらい部との連携というのが必要になってきますので、その辺の部分で協議等はしていかなきゃいけないと。

委 員 お願いします。それで、少し予算も来れば、なおい。

会 長 そうですね。やはり何かやって、実のあることをやるぞやるぞとやわらないことには駄目だと思いますし、今までも議論にありましたように、議会の議員さんの評価というのも、きっと大事なことだと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

委員 あと1点だけ。発達の関係中で、よく最近は、学校の方とか教育の分野も一緒にというふうにやっぺいらっしやるようなこともあると思うので、ぜひ教育委員会とも少し連携しながら、三位一体というか、一体となって色々なことを進めていただけるといいなと思っています。

会長 では、2番目の平成31年度の予算についての議題に入りたいと思います。資料8の説明をお願いします。

事務局 平成31年度の予算についてです。資料8の産科診療所運営費収支計画書になります。分娩件数につきましては、平成30年度の状況、実績と見込みから、140件を見込んでおります。

事業活動収入は、補助金収入が、鎌倉市からの運営費補助金1億3,175万2,000円、及び産科医師分娩手当補助金46万6,000円で、合計1億3,221万8,000円。受取受託料は、鎌倉市から受託する新生児訪問事業39万円、風疹等予防接種13万6,000円、子宮頸がん検診61万8,000円、「はじめまして赤ちゃん広場」事業26万8,000円、合計142万3,000円。診療収入は妊婦検診、婦人科検診、婦人科診療等による外来収入、分娩等に係る入院収入で1億2,502万円。駐車場固定収益金、自販機売り上げ手数料等の雑収益68万1,000円を加え、事業活動収入の合計は、2億5,934万9,000円を見込みました。平成30年度当初予算と比較しまして、780万7,000円の減少となっております

続いて、事業活動支出ですが、事業管理費の主なものは、食事提供、臨床検査、清掃等の委託料が2,751万1,000円、薬品消耗機材の購入に要する薬品材料費が641万5,000円、土地建物の借用、医療機器リース料等の賃借料が3,848万9,000円で、合計8,564万4,000円を見込みました。人件費は、医師及び看護、事務スタッフの給料、諸手当、法定福利費、退職給与引当金等で、合計1億7,369万8,000円を見込みました。事業活動支出の合計は2億5,934万2,000円です。前年度当初予算と比較しまして、794万2,000円の減額となっております。

委員 運営費補助金を前年度より約900万減らされています。役所ではどう

いう御議論なされたのですか。減ったことはありましたか、これまで。予算で。

事務局 予算の話し合いは、大体、毎年、今ぐらいの時期から始まっていくのですが、市の方はどうしても作業が早い。この減らすというのは、ここのところずっと当然、収入の額も分娩件数の落ち込みに比例して落ちておりましたので、収入に関しては非常に厳しく見ざるを得ないということで、安全面をみて見積額を減らしていったという結果になります。

委員 それは、議会の話で役所の話だから、どこか市議会で取り上げられたのですか。

事務局 特に、その話はなかったです。

委員 1億3,000万入れているので、1分娩当たり94万円の補助金ですよ。計算すると。色々な考え方があると思うのですが、市民から見ると、何でここだけそんなにやるのというのが当然出ますから。皆さんの自治体は多分、財務状況が多分よろしいですよ。規模も大きいし、市民病院もないし、これぐらいいいわというふうになっているのか。色々な方がおられて、それだったら他に回してくれとか出ているのか。鎌倉市民の約10%がここで出産されているみたいなので、その辺は、私が職員だったらすごく不安になるのですよね。市長が代わった途端に無くなったりするのであれば、もうさっさと辞めようと思えますから。お辞めになった方が、若い方だったりしたら。いい人から抜けていくのはよくあるパターンで、私ははっきり言っておくけど、予算額が減ったということは初めてではないかと思うのですが、どういふふうなお考えで。結構、これは普通に無理ですよ。それは。個人の責任持ってやっている先生、矢内原先生がやられていて、徳洲会でやっていて、分娩件数増やせといってもそれは無理ですよ。だけど、10%やっているのだから。ハードランディングまでやるわけにいかないしというので、こういう切り方って結構、敏感に来るのですよね。すごくシンボリックなイメージで、減らしてますみたいなイメージに

なるので、私が職員だったらすごく不安になって、そろそろ辞めようかみたいに思いますけどね。方針なので、良い悪いじゃなくて、そういうふうに考える方いらっしゃると思いますよ。

事務局 今の私どもの産科診療所の立場から申し上げますと、この数字につきましては、簡単に申しますと、赤字分を市の補助金で賄っているというのとは実際のところ。

委員 そうでしょうね。

事務局 こういう厳しい状況ですので、当然、安全面等の配慮をしながらも、経費の削減等を考えながら、収入の確保を図りながら、やった結果、やっぱり分娩件数が一時期のピーク時の半分に減っているという関係もあって、全体の予算規模が縮小せざるを得ない。色々な工夫、削減を図ろうということで、結果としてこの数字になって、赤字分が800万ほど減らされたという言い方はおかしいが、その分、補助金が減る形になる予算を組んだ。

委員 組んだのは市役所か議会だから、ティアラ組んだわけじゃないですよ。あくまでこれは、鎌倉市役所の話ですよ。

事務局 私どもが翌年度の事業をどのように計画していくかということで市との話に入ります。ティアラの方から当然、資料としては出しております。

委員 いやいや、済みません。市の予算なので、あくまでも鎌倉市役所の話で議会なので、私が職員だったらそう取るなと思って。もう過当競争になられると思いますから、過当競争でそれは、成長で収益を上げないと基本的に無理だと思いますので、そのときにどこまで鎌倉市が始めたからどこまでやるのかみたいなのは、こういう予算の意味、メッセージ結構強いですからね。別にこんなことしなくても鎌倉市が困るとは思えないので、というふうに私は考えます。そう考える人もいらっしゃると思いますよ。

委員 大体、診療の収入と、市の補助金と半分ずつくらいですよ。全体が2億5,000万ぐらいかかる。それが大体、半分ずつぐらいなので。そ

れで今回も去年も少しずつ返していますよね。余った分を。それからいくと、予算としてはこんなものなんじゃないかなというふうに、私は見たのですけどね。何百万減ったというよりは、バランスとしてこんなものじゃないかなと、私は思ったのですけれど。どうなのでしょう。議会でそんなに、この産科診療所をやめろとかそういうような意見はあんまり、全然出ていないのではないかと思うのですけれど。どうなのでしょう。

事務局 ここ最近に関しては、そういう話は出てはいないです。

委員 そうだと思う。確かに金食い虫ではあるけれど、それほど、そのことも、一番の争点というかそういうふうにもなっていないので。だから、鎌倉市としては、なるべくだったら診療報酬の方で沢山出していただければ、援助するのは少力で済むわけじゃないですか。けれど、どんなに努力しても、やっぱり今産まれる件数というのは徐々に徐々に減っているのは事実なので、やっぱり半分は援助せざるを得ない状況がずっと続いているので。あんまり私は、鎌倉市からの予算額を悲観的には見てないのですけれど。どうなのでしょうかね。考え方が甘いのでしょうかね。

委員 いやいや、色々なお考えがありますよね。

委員 こんなに多いじゃないかと思っちゃったのですけどね。

委員 そうなのでしょうね。ずっとこれをやられているので。

委員 診療のほうもすごく努力して、全体の半分は稼ぎ出しているわけですから。いいところこの辺で落ちついているじゃないかという感じをもったのですけどね。

会長 平成30年度の決算のところ、これだけ余剰、余剰って変な言い方ですが、余剰金が出たので、市の方からいただいた補助金を減額すべく返還しましたといったようなことが平成29年度もあったというお話なので、そういったような中から、あらかじめ予算上の措置として、少し減らすというようなことがあるわけですね。ただし、それが例えば平成30年度の決算のときに、これはたしか前々何か何かにもちよっ

と伺ったような記憶もあるのだけれども、想定よりも、もちろん補助金が収入というふうな前提の上でやっていたときに、少しお金が余ってくるという計算になったときに、施設の老朽化への対応とか、医療機器の更新とかそういった当初予算化されていないものに、少しお金を使えないのかといったようなことを申し上げたような記憶があるのだけど。

委員 そうでしたね。

会長 それが何か難しいといったような。かなり施設の老朽化というのは問題になっているというお話も伺っているので、そういうことができないのかと伺ったら、ちょっとそれができないと。できないということであれば、もう正直に返すしかないわけで、その辺が何かフレキシブルにできるのであれば、さっき別の委員がおっしゃったように、今まである意味、獲得してきた予算額というものを減額しないで、よりよい将来のために少し使っていくといったような方向の方が、おまえのところ減らせるのならどんどん減らせよ、みたいな議論にはならないから。

委員 はい。そうですよね。

会長 より安心できるとも言えるのですが、そういうことはできないというお話でしたね。何かあんまり。年度の途中で少し稼ぎがよかったから、当初の計画よりも少し収支計算がいいと、じゃあ300万ぐらいいけそうだから、パイプがひび割れているからそれ直そうか、みたいな話ができないといったようなお話も伺ったような記憶あるのですが、そういうものでもないのですか。

事務局 基本的には、やはり予算。大きな金額は、特にそうなのですけれども、予算で。

会長 予算化されていなきや無理だと。

事務局 余ったからといってすぐ使えるわけではない。

会長 どこでも、臨時の予算を年度の途中で立てるという話ありますよね。色々な自治体でも。そういうことはないのですか。ティアラは。

事務局 今までは、余りそういった。

会 長 ことはやったことはない。

事務局 補正予算を組むというような手続はしていません。細かい修繕とか、想定外のものがどうしても出てまいりますので、そういったものについてはその年度内の予算で、色々なところから流用したりして賄ってはいますけれども。

会 長 それは、小さな話。

事務局 大きなものについてはやはり。

会 長 なかなか難しい。

事務局 次の年度に予算にのせてというのが、市の方の指導もそういうことになっていきますので。

会 長 そうだとすると、例えば、先ほどの委員の意見じゃないけど、平成31年度の予算額が900万ばかり少ない。じゃあ、この900万のお金をそのまま減らさないで、ある程度、大きな施設の修繕をやりたいからというようなことにはいかないのですか。

事務局 この辺はもう市との話になって。

会 長 そうですね。

鎌倉市 実際、ティアラを今後どうするかという部分が、一番大きいのだと思います。そうするとじゃあ、ティアラをどういう形にしていくのかとかそういう部分で話し合っ、その中で、じゃあこういう形にしていこうという部分ができて、初めて大規模修繕、そういうものが出てくるのだと。まだ、その段階にはきていないので、そういう部分を決めてから、そういう大きい修繕等を、もちろん考えていかなければいけないのかなというふうには思っています。

会 長 私の記憶しているところでは、この数年のこの会議での意見の総意というのは、やはりティアラがいかに鎌倉市の市民の方のお役に立っているかということは、例え分娩数が減少したとしても、明らかにお役に立っているのだから、何とかプロモーションをして、継続性を図っていくのが喜ばしい方向ではないかと、毎年、何かしらの形で

は申し上げていると思う。具体的には恐らく、市と医師会の方でそういうお話し合いをされることだと思いますが、ここの協議会の意見としては、そういう方向にあるのだと。それは、別にここ数年、変わっていないというふうに御理解をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

平成31年度の予算について、他に御意見ございませんでしょうか。先ほど、委員から、人件費を減らすと心配というようなお話もありましたが、どうなのですか、これは。

委員 そうですよ。これ以上は減らさないで下さい。

会長 職員のモチベーションが下がったら、事故のもとですしね。

委員 私、希望ですけれど。やはり、職員の方たちが生き生きと元気に働いておられて、いい出産もできると思います。出産した人たちも良かったなと思われると思いますので。何とかこれ以上は減らさずをお願いしたいと思います。

委員 非常勤の助産師さんは、どの様な働き方をされていらっしゃるのか。今回、ちょっと増えて5人、非常勤で助産師がいらして、どういう働き、市の訪問事業とかをやっていらっしゃる方とか、兼ねて働いているのか。どういう方かなと思う。

事務局 できるだけその人の働き方の希望というか、ポイントを合わせる形で対応しています。一番、時間数として働く非常勤の方については、フルタイムに近い形で夜勤、それから日勤もこなすという方もいらっしゃいます。その他には、日勤のみで夜勤はできないという方もいらっしゃるのですが、そういう方については日勤のみで。内で実際にいるのは、ほぼ外来専門で対応してくれる助産師、それから病棟、外来などもこなす、多様な働き方をする助産師、色々な方の特性と希望に合わせてやっておりますが、非常勤の場合にはやはり時間の。

委員 融通がというか、時間数。

事務局 時間数自体も多少フレキシブルに対応できるということで、常勤が減って、なかなか常勤の方では小回りがきかなくなってくる部分につ

いては、そのすき間を埋めるような形でやっていただいております。
委員 なるほど。わかりました。ありがとうございます。
会長 よろしければ次に、運営体制の方のお話に移りたいと思いますので、
説明をお願いいたします。

事務局 資料9のティアラかまぐららの運営体制についてです。医師、看護スタッフ、事務員という分類で説明をいたします。

医師の外来診療については、当直回数を含めまして一部変更いたしました。高山所長は月曜日、木曜日を担当しております。それ以外の曜日は、非常勤医師5名が交代で担当をしております。内訳は、東京女子医大の佐藤陽一医師、慈恵医大の川畑医師、矢内原医師、山村医師、高橋医師、小児科の1カ月検診では横浜市大学市民総合医療センターの岩間医師が担当をしています。病棟は、外来に当たっていない非常勤の産科医師と高山所長とで交代で担当をしております。当直については、非常勤の医師が担当しており、月、火、木、金の当直医師は翌日、外来を担当いたしております。帝王切開に際しての麻酔科の医師は、東京麻酔グループと契約をしておりますので、吉野代表以下、21名の中から派遣されてきています。

看護スタッフは、昨年7月1日時点において、主任1名を含む常勤助産師が10名、常勤看護師が1名、非常勤助産師3名の体制でございましたが、今年度当初4月1日には、主任1名を含む常勤助産師7名、常勤看護師1名、非常勤助産師5名の体制という形に全体の削減を図りました。

事務員は、常勤2名、非常勤2名という体制でございます。具体的に言いますと、常勤が減った分、これは2名、常勤については常勤が非常勤に雇用替えという形で、これは本人の都合もありまして雇用替えをいたしております。ですから、働く時間数等は若干減る、あるいは月ごとに多少の時間数の柔軟性をもった対応ができるという形で、対応できるようになりました。1名については、そのまま内の方に留まることなく、他の機関へということで辞めております。

今年度に入りまして、常勤1名が時間数をぐっと減らす形での非常勤への配置替えを希望しておりまして、4月一杯でという形になりました。また、8月一杯で1名は退職するということになりましたので、先ほど申し上げましたように、これ以上減らすことは好ましくないと考え、この補充については今進めているところでございます。1名については、非常勤で今年度雇いました助産師について、常勤の方に雇用替えを来月からすることで、不足1名は決まっております。もう1名については、基本的には補充するという考えで進めておりますけれども、状況によって非常勤を増やすということ等でも対応できればと。後、職員の意向も踏まえながら、この体制を考慮してやっていきたいと思っております。

会長 平成31年度の体制について、何か御意見、御質問等がございますか。よろしいですか。

それでは、多くの御意見をいただきありがとうございました。事務局でも御検討いただき、必要に応じて医師会と皆様方とで御検討をいただけるものと考えております。

後、事務局からお願いいたします。

事務局 次回の開催時期ですが、来年の1月28日の火曜日を予定しております。改めて、御案内申し上げますので、よろしくお願いいたします。また、会が始まる前に、委員の再任確認書をお配りしてございますので、ご返送をお願いいたします。

最後に、鎌倉市医師会西尾副会長から、御挨拶をお願いいたします。

西尾医師会副会長 本日はどうもありがとうございました。大変、貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後とも、ティアラの運営に頑張りたいと思いますので、引き続きの御支援のほどよろしくお願い致します。

会長 お忙しい中ありがとうございました。

これで本日の協議会を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。